



春のお出かけは図書館へ

## 建築も愉しめる、 ユニークな図書館で過ごす

図書館というと、書架がずらりと並んだ四角くておそろいな雰囲気の建物が思い浮かぶかもしれませんが、最近ではユニークで楽しいデザインの図書館が全国各地にオープンしています。SUBARUのおひざ元、群馬県太田市にある太田市美術館・図書館もそのひとつ。太田駅周辺ににぎわいを取り戻そうという想いからスタートしたこの建物は、この地に関連する建築デザインにするため、中島飛行機のプロペラや翼、天神山古墳、金山など、太田にしかないイメージを総合して花びらのようなカタチをもったスロープが連続する形状になりました。今月の特集では、この建物の建築設計を行った建築家の平田晃久さんに取材し、その土地の歴史や文化、住んでいる人々の想いを融合した建物がどのようにしてでき上がるのか、平田さんと太田市民が力を合わせたユニークな取り組みについてお話をいただきました。

# 新しい郷土の建築物のつくり方

その街に暮らす人々が抱く  
想いから生えてくるような  
建築をつくりたい

動物的本能を持った人間が、野山や木の上で暮らしていた頃のように、自然の中で感じるような自由さや開放感を愉しめるスペースをつくりたいと思い、私は建築家を志しました。さらに、東日本大震災後、建築家としていろいろな提案をしましたが、なかなか良い形で役立つことができなかったことから、さまざまなコミュニケーションがある中で、その場所の人々が共通に抱いている想いから生えてくるような建築をつくりたい、と考えるようになりました。そんな折、太田市美術館・図書館のデザインコンペがあったのです。

## 太田市民とのセッションを経てデザイン

コンペでは2つの提案をしました。1つ目は、街に見立てた5つの箱の周

りにスロープが道のように巻きつくことで、街から街へと歩きながら街が続いていくという建築の基本コンセプト。2つ目はつくるプロセスで太田市の皆さんとデザインワークショップを行い、そこで重要な決定をしていくという手法でした。

実際にその手法を進めていくと、私たちが気づけなかった発見がたくさんありました。例えば、当初「箱」として考えていたものに対して、箱の中を見通せるようにしたいという要望が出て、箱は穴だらけになり、いろいろな場所が混ざり合い、スロープはそれらをつなぐ縁側のようなイメージになりました。また、初期案では、屋上の庭園は平らでしたが、太田は風が強いので、風対策を考えてほしいという要望があり、丘のような形状にして風が流れるように設計をしました。そのとき、京都での学生時代に鴨川の斜面で本を読んで過ごした私自身の記憶が重なりました。このように、ワークショップに参加した方々の声に自分の経験を重ね合わせるようにし

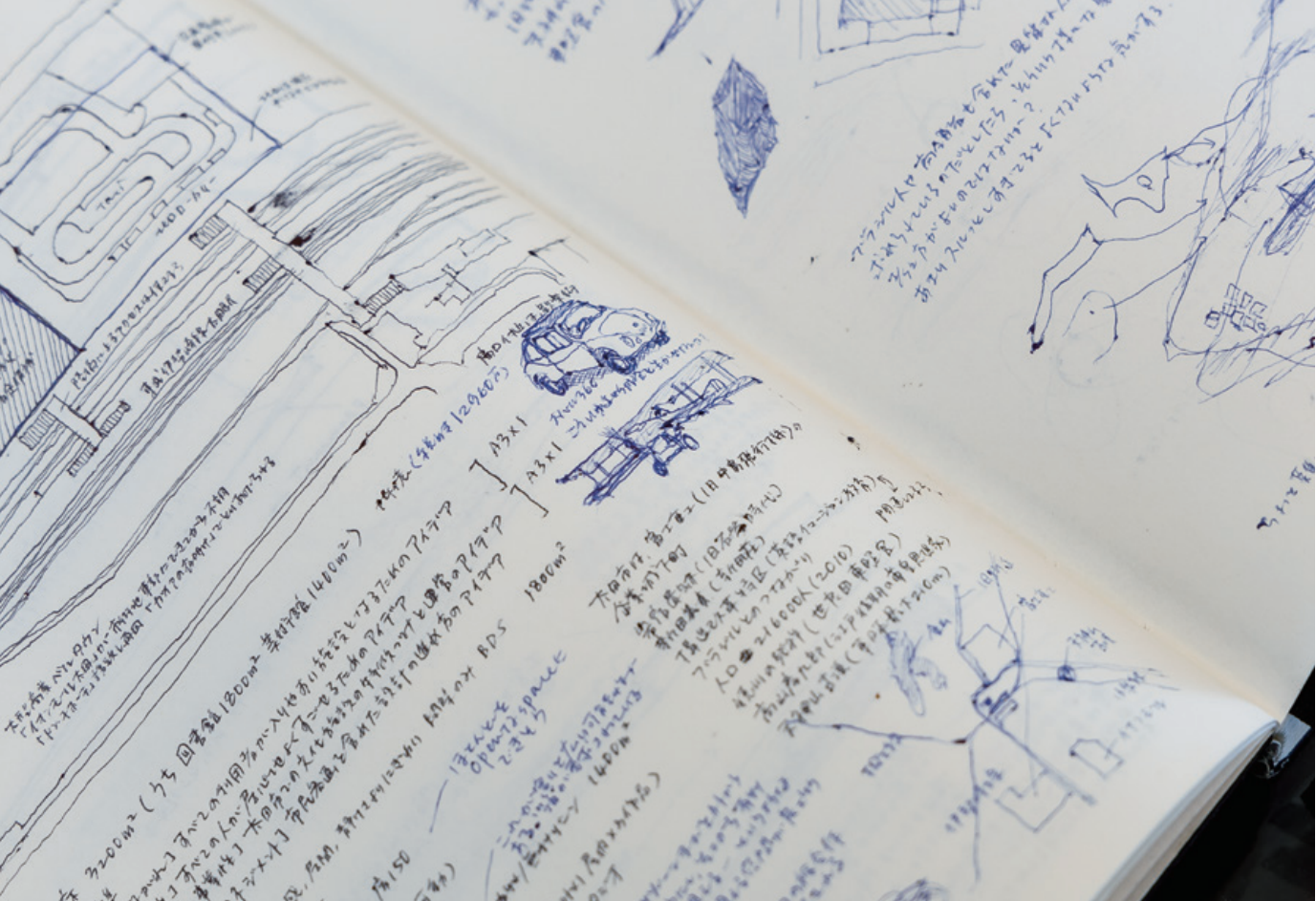
て設計が進められていったのです。最終的に完成した空間は、いろいろな人が自分のお気に入りの場所をそれぞれのエリアで見つけられるような変化に富んだものになりました。

## 太田市ならではのインダストリアルな風景を増幅するデザインの新しい図書館

太田市美術館・図書館とは別に、今、太田市で新しい図書館（仮称）太田西複合拠点公共施設」を建設中（25年オープン予定）です。太田市美術館・図書館の建築のために太田市に何度も通っているうちに、駅周辺だけでは気がなかつたこの地ならではの雰囲気がかつてきました。どこまでも平らな関東平野に大きな工場や鉄塔が連なっているその光景は、日本離れたインダストリアルな風景で、その乾いた風景が結構カッコ良かったのです。この風景が太田市のひとつの自然をつくっているのだなと感じました。ここで暮らしている人もそのことに気

づいているようで、太田市美術館図書館のデザインワークショップに参加された方からの依頼で設計した「ファインディング・レストランオオタヤ」では、鉄塔やフェンス等太田市の風景をつくりだしている要素を取り入れ、鉄塔のあるこの風景のカッコ良さを視覚化しました。

（仮称）太田西複合拠点公共施設の敷地は乾いた平野が続く、そこに風が吹き渡っていくような大らかな風景の場所にあります。そこにこんなまりとした建物は似合いません。この風景を増幅していくような、新しい意味合いでの「故郷」をここに作るのだという意識が芽生えました。今回もワークショップを実施し、3種類の案を議論して最終案が決まりました。現在は今年末の竣工に向けて、太田市の見慣れた風景がカッコ良く感じられるような建物にするにはどうすればいいかということや、カタチにしたり話し合ったりしている状況です。



平田晃久さんのノート。コンペに参加する際に下調べ用にまとめたメモには、スバル360やSUBARUの前身である中島飛行機の航空機のスケッチも描かれていました。



太田市美術館・図書館の建築設計プロセスにおいては、市民とのデザインワークショップで参加者全員がイメージを共有しコミュニケーションを円滑に行うために、約200個もの建築模型が作られました。通常、この規模の建築物では50~60個程度ということですので、その数の多さに驚かされます。



太田市西部に建築中の（仮称）太田西複合拠点公共施設の建築パース。河川氾濫時には最大3mの浸水が予想されるため、1階からゆるやかなスロープで2階につながるような設計で多世代に開かれたオープンな複合施設を目指しています。



平田晃久（ひらた・あきひさ）

1971年大阪府に生まれる。1997年京都大学大学院工学研究科修了。伊東豊雄建築設計事務所勤務の後、2005年平田晃久建築設計事務所を設立。2015年より京都大学赴任。現在、京都大学教授。主な作品に「樹屋本店」(2006)、「Isarugaku」(2008)、「Bloomberg Pavilion」(2011)、「太田市美術館・図書館」(2017)、「9h Projects」(2018)、「Overlap House」(2018)、「お祭りんでん館」(2021)など。

# 太田市美術館・図書館を訪ねて

案内人：松田彩加さん（元平田晃久建築設計事務所）



## ガラス張りで中が見えやすく、入ってみたいくなるエントランス

太田駅の北口を出ると左手に太田市美術館・図書館が見えてきます。1階にはカフェがあり、ガラス張りなので外から中の様子がよく見えます。その左右にエントランスがあって入りやすい雰囲気を生んでいます。右手の入り口の前にはバス停があるので、カフェでバスを待つのに使ってもいいですし、駅から降りてきた人との待ち合わせにも便利です。カフェからオープンテラスに出ると外階段で2階のテラスに上がることができます。屋上には近くにある金山に自生するものと同じ種類の植栽を植えた、斜面のある丘のような空間があり、晴天時には館内から自由に出入りできます。

## 穴だらけになった5つの箱

建物は、5個の鉄筋コンクリートの箱とその周りをぐるぐる回るリムと呼ばれる鉄骨のスロープでできているのですが、コンクリートの箱は、壁を抜いて穴だらけになっているので、館内を歩いていると、5つの箱を感じるのはいかめかもしれません。館内で箱を見分けるヒントは、天井にあります。天井が鉄骨になっているところは箱と箱をつなぐリム部分です。箱と箱がリムで有機的につながれ、穴だらけになったことで中の様子もよく見えるので、カフェから図書館へ、図書館からギャラリーへと気が向くままに行き来できます。



## イベントスペースの大きな吹き抜け

建物の北東側には、1階から2階までが大きな吹き抜けになった空間があります。ここではワークショップや絵本の読み聞かせ会など、さまざまな催しが行われる場所で、SUBARUのクルマが展示されたこともあります。外から見ると、大きなガラス面が下から上までドカーンと続いていて、駅側から見たのとは異なる建物の雰囲気を味わうことができます。



## 西側にあるもうひとつのエントランス

館の西側には駐車場からアクセスできるもうひとつのエントランスがあります。こちら側もガラス面を通して中のスロープ沿いに本棚が天井まで続く館内の様子を眺めることができます。ガラス面には紫外線を99.8%カットするフィルムを貼っています。また、この方向から建物を見ると、箱の周りをらせん状に取り囲むリムの様子がよくお分かりいただけます。



平田晃久建築設計事務所のスタッフとして当時太田市美術館・図書館の設計に携わった松田彩加さん。

太田市美術館・図書館  
群馬県太田市東本町16-30  
TEL:0276-55-3036  
開館時間：10時～20時（日曜・祝日は、18時まで）  
\*企画展の観覧は18時まで（入場は17時30分まで）  
休館日：月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）  
年末年始（12/29から翌年の1/3まで）  
駐車場：40台



## 館内にはSUBARU車をつくる技術力が発揮された備品も

館内には、SUBARU車のパーツをつくっている太田市内のサプライヤーさんたちが集まって運営しているエアライボオオタと、平田晃久建築設計事務所との共同製作でつくられたソファや照明器具があります。中でもマイクロメローシステムという幾何学を応用したフレームを使い、フロアごとにサイズや色が異なるソファは、ものづくりの街太田を象徴するアイテムですのでぜひチェックしてみてください。



## 休日は親子連れや子どもたちで賑わう絵本・児童書コーナー

5つの箱の1つが子どもの絵本エリアとなっていて、靴をぬいで利用できる囲まれた優しい空間になっています。親子連れや子どもたちに気軽に入ってくつろいでほしいという考えから、太田市美術館・図書館では蔵書も絵本や児童書を中心に揃えており、現在5万冊のうち2万冊が絵本・児童書です。絵本・児童書コーナーは、日本の本と外国の本に分かれていて、日本の本の棚は作者別ではなくテーマごとに、外国の本は国別に配架しており、休日には親子連れや子どもたちで賑わいます。



## 街歩きを楽しむような感覚の館内ディスプレイ

館内の案内表示はシンプルで分かりやすく、遊び心を感じさせるデザインのマークやロゴが使われています。これは、「街を取り込む、街に溶け込む」というコンセプトのもとで、外を歩いているような雰囲気を感じられるようにグラフィックデザイナーの平野篤史さんにデザインしていただきました。



カートピアの取材でSUBARUの群馬製作所を訪れた際の空き時間など、これまで何度か立ち寄ったことがありましたが、平田晃久さんの話を聞いて改めてその建物を眺めてみると、風の強いものづくりのまち、太田市にふさわしい唯一無二の建築物だということが伝わってきます。より詳しくそのデザインの魅力を深くために、平田晃久さんと共に太田市美術館・図書館の建築設計に当時スタッフとして携わった松田彩加さんに案内していただきました。

刻んできた歴史が生み出す  
重厚な空気に触れたい

大阪府立中之島図書館

【設計】野口孫市氏、日高祥氏



© ShoPro・長谷工・TRC共同事業体

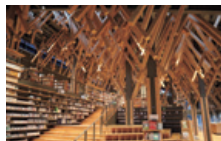
現在も使われている公共図書館としては日本最古で、国の重要文化財にも指定されています。住友家からの図書館の建物一式と図書購入基金寄附により1904年に本館が竣工、1922年に左右両翼が増築されました。外観はルネッサンス様式、内部空間はバロック様式を基本としながら、優れたデザイン力による格調高い建物となっています。毎週土曜日に1日3回実施されるガイドツアーでは、建物に関することはもちろん、開館当時の様子なども知ることができます。120年もの長い歴史に思いを馳せ、ゆっくりと館内を巡ってみてはいかがでしょうか。

大阪府大阪市北区中之島1-2-10  
TEL: 06-6203-0474  
開館時間: (月~金) 9時~20時 (土) 9時~17時  
休館日: 日曜日・祝日、3・6・10月の第2木曜日、12/29から翌年の1/4まで  
駐車場: なし。近隣の有料パーキングをご利用ください。

木の温もりに包まれる空間で、  
癒されたい

ゆすはら雲の上の図書館(栲原町立図書館)

【設計】隈研吾氏



高知県高岡郡栲原町栲原1212-2  
TEL: 0889-65-1900  
開館時間: 9時~20時  
休館日: 火曜日(毎週)、金曜日(最終週のみ)  
駐車場: 台数には限りがございます。役場総合庁舎前の駐車場もご利用ください。

ゆすはら 栲原町がめざす「人と自然が共生し輝く栲原構想」の中核施設として建築された図書館。高知県栲原産の木材が活用されています。天井から伸びた無数の木材は木の枝をイメージしており、森の中にいるような空間を演出。また、図書館には靴を脱いで入り、好きな場所に座ったり、木の床に寝そべってみたり、全身で木の温もりを感じながら穏やかな時間を過ごすことができます。栲原町には栲原町総合庁舎やギャラリーなど隈研吾氏が手がけた作品が多くあるため、他の建築と一緒に楽しむのもおすすめです。

都会にありながら緑を感じる図書館で、  
お気に入りの場所を見つけたい

本の森ちゅうおう(東京都中央区立京橋図書館)

【設計】類設計室



東京都中央区新富1-13-14  
TEL: 03-3551-2151  
開館時間: (月~土) 9時~21時  
(日・祝) 9時~17時  
休館日: 第3木曜日、年末年始  
駐車場: 24台

京橋図書館、郷土資料館を統合し、多目的ホールやカフェを備えた複合施設。地上6階の6つのフロアで構成され、緑のテラスが幾重にも重なっている外観が目を引きまます。内観は森の生態系を参照してつくられており、1階が林床、2階が草本層、3階が低木層、4階が亜高木層、5階が高木層、屋上が林冠と各フロアを森林に見立てています。また、「つどいの森」や屋上庭園などの庭園が備わっており、都心にいながら豊かな自然を感じることができます。各フロアでお気に入りの場所を探して回るのも楽しみのひとつです。

斬新な現代建築の図書館で  
読書を愉しみたい

金沢海みらい図書館

【設計】シーラカンズK&H(工藤和美氏+堀場弘氏)



石川県金沢市寺中町イ1-1  
TEL: 076-266-2011  
開館時間: (月~金) 10時~19時  
(土・日・祝) 10時~17時  
休館日: 水曜日(祝日・振替休日と重なった場合は開館)、特別整理期間(6月第1日曜日~翌々日・11月の最終月曜日~翌週の金曜日)、12/29~1/4  
駐車場: 100台

金沢市4番目の市立図書館として、2011年に開館。世界の最も美しい公共図書館ベスト25にも選出された斬新な建物のデザインは、開けたときにワクワクするケーキの箱がモチーフになっています。外壁の水玉模様は、約6000個の丸い窓。読書に適した採光にこだわり、形や大きさ、配置などの検証を行い、サイズや種類もそれぞれ異なるものが採用されています。なんと、このガラスは自動車のヘッドライトをつくっている工場で製作されたものとか。柔らかな光に包まれた空間で読書を愉しむことができます。

いつか訪ねてみたい

建築も愉しめる図書館セレクション

平田晃久建築設計事務所セレクト

柔らかい光と木に包まれた広がりのある図書館 — 平田晃久さん

みんなの森 ぎふメディアコスモス(岐阜市立中央図書館)

【設計】伊東豊雄氏



岐阜県岐阜市司町40-5 TEL: 058-262-2924 開館時間: 9時~20時(中央図書館以外は21時まで)  
休館日: 毎月最終火曜日(祝日と重なる場合は翌日・年末年始と重なる場合は前週の火曜日)、12/31~1/3  
駐車場: 300台(ぎふメディアコスモス立体駐車場)



「みんなの森 ぎふメディアコスモス」内にある図書館。館内に入るとヒノキの良い香りが漂ってきます。最大の特徴は、天井の格子屋根とグローブと呼ばれる大きなポリエステル製の傘。岐阜県産の「東濃ヒノキ」を活用した木製の格子屋根は、職人の手作業によって積み上げられたもので、波打つ形状によりヒノキ特有のしなりが表現されています。グローブはトップライトの光を柔らかくさせる効果があり、夜間時は照明のシェードとしての役割も。館内では、秘密基地を彷彿とさせる閲覧スペースや岐阜城や金華山を一望できるテラスで本を読むこともできます。

公園の中の、長い宇宙船のような図書館 — 松田彩加さん

宮城県図書館

【設計】原広司氏、アトリエ・ファイ建築研究所



宮城県仙台市泉区紫山1-1-1 TEL: 022-377-8441 開館時間: (火~土) 9時~19時 ※子ども図書室・展示室は17時まで(日・祝) 9時~17時 休館日: 月曜日(祝日と重なる場合は翌日)、年末年始、館内整理日(1/4)、特別整理期間 駐車場: 300台



泉パークタウン内に1998年に建設。東西に細長い銀色のチューブのような形で、宇宙船を思わせる外観です。設計理念のひとつに「すべての人々を楽しく迎え入れる公園としての図書館」とあり、天井までガラス張りのエントランスホールや「書見の道」と呼ばれる遊歩道など、館内のいたる所で四季折々の自然を愉しめます。「地形広場ことばのうみ」はもとの地形をそのまま生かした設計なので、館内にある地形の模型と見比べると面白いです。公園を散歩するように、自然や本と触れ合える場所です。